

## 「主の恵みがエネルギー源」(2021.7.18)

あなたに向かって両手を広げ、

渇いた大地のようなわたしの魂を、あなたに向けます。(詩編 143:6)

上掲のみ言葉は、嘆き祈るダビデが、ありのままの自分を主の前にさらし、主の応答を求めている詩です。主に向かって両手を広げ、自分の魂を渇いた大地にたとえ、主に向けるのです。詩編 42 編の、谷川の流れを慕う鹿の歌が響いてきます。自分が全く渇いている存在であることを素直に認め、主の前に両手を広げ、差し出すのです。なんと幸いなことだろうと思います。渇く自分をありのままに認め、主に差し出すことができるのです。ここが私たち信仰者の逃げ場であり、力の源泉です。



一日の務めを終え、疲れた体をベッドに横たえ、「忠実な僕よ、よくやった」その御声を響かせながら深い眠りに身を委ねます。仮に明日の朝、目覚めることがなければそれでよし。主の揺さぶりを受けて目覚めたら、その日の務めがあり、それを成す力も備えられているので、今日に起き上がるのです。昔、過密なスケジュールで勤務していた時、考える暇もなく自分に鞭打って起き上がり、一日をスタートしていました。でも今は静かに自分を見つめ、自分の力の源泉に思いを馳せ、渇く心を主に向けるのです。

自家発電のエネルギーには限界があります。元気も愛もやがて無くなり、燃え尽きます。やがてぽっかり胸に穴が開きます。しかし、キリスト発電のエネルギーは朝毎に新たに、尽きません。主の恵みは変わることなく注がれています。主に向かって両手を広げて、シャワーを浴びるように渇ける魂を主に差し出し、静かに祈るのです。すると、主の恵みが体全体に降り注ぎ、洗い流し、潔め、聖なるものとし、心の奥底から喜びと感謝が溢れ出すのです。キリストに結ばれているので、ダイナミックに働く聖霊の場になるのです。

朝であれ夕であれ、エネルギー不足に陥ったら、両手を広げ、渇いた大地のような心を主に向け、静かに歌いつつ祈りましょう。

「雨を降り注ぎ 恵みたもうと、神は愛をもて 誓い給えり。

夕立のごと 天(あま)つ恵みを、イエスよ今ここに 注ぎ給えや」(聖歌 570 番)